先週の礼拝メッセージ(2023 年 5 月 14 日母の日) ベン牧師

「証人となった女性たち」　ルカによる福音書 23:50-24:12

イエス様が十字架にかかられたとき、弟子たちが皆逃げてしまっている中、アリマタヤのヨセフが、イエス様の遺体の引き取りを願い出て、ゴルゴダの丘のすぐ隣にある新しい墓にイエス様の遺体を納めました。それは安息日、特に過越の祭りの初日が重なる「大いなる安息日」という、ユダヤ人にとっては大切な日の直前でした。あと数時間でその安息日が始まるということで、イエス様の遺体は大急ぎで引き取られ墓に納められました。そのため、通常遺体に施す防腐剤(没薬)や死臭を抑える香料を塗布する時間はありませんでした。

その様子を見ていたのが、今日登場する女性たちです。彼女たちは、安息日が終わるのを待って、日曜の朝早くに没薬や香料を持ってお墓に向かいました。行く途中、大きな地震があって、墓の入り口を塞いでいた大きな石は動いてしまいました。そんなことは知らない彼女たちが到着すると、番兵の姿はなく、墓の入り口は開いていました。中に入ってみると、イエス様の遺体を包んでいた亜麻布はあるけれど、イエス様のお体はありませんでした。

そこに天使が現れて、「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。 あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられた頃、お話しになったことを思い出しなさい。 」(24:5、6) と言うのです。

なんと彼女たちは、イエス様の復活の最初の証人となったのです。この知らせを女たちから聞いた弟子たちの反応は、「しかし、使徒たちには、この話がまるで馬鹿げたことに思われて、女たちの言うことを信じなかった。」のです。わずか 2 日ほど前に、イエス様が十字架で息を引き取られたのを彼らは目撃したのですから、すぐには信じられなかったのでしょう。ペテロは園まで走っていき、空っぽの墓を確認しましたが、信じるには至らず、「この出来事に驚きながら家に帰った。」のです。

では女たちはどうでしょう。女たちの中のマグダラのマリアは、もう一度園に行き、そこで復活のイエス様と出会うのです。しかし彼女はイエス様を園の番人だと思い「あなたがあの方を運び去ったのでしたら、どこに置いたのか、どうぞ、おっしゃってください。私が、あの方を引き取ります。」(ヨハネ 20:15)と言っています。

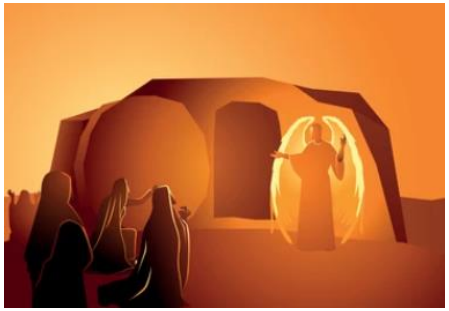
つまり天使の言葉を聞いた女性たちでさえ、イエス様の復活を 100%信じるには至っていませんでした。しかし彼女たちによって復活は使徒たちへ伝えられたのです。紛れもなく、神は復活の最初の証人として、女性を用いられたのです。なぜでしょうか？

それは彼女たちがイエス様を心から愛していたからです。イエス様のことが大好きだったから、大急ぎで十字架から下され、墓に納められたイエス様を見て、なんとかそのお体に没薬を塗って腐敗を遅らせ、香料で臭いを抑え、きれいにして差し上げたいと願って、いてもたってもいられず、夜が明けるのと同時に、墓に向かいました。もしかしたら番兵に追い返されるかもしれない、あるいは最悪、イエスの仲間だと捕らえられるかもしれないリスクがある中、彼女たちは墓に向かったのです。行ったからこそ、24 章の出来事があったのです。

彼女たちはそれほどにイエス様を愛していたのです。ある意味、復活を馬鹿げたことと思った使徒たちよりも、純粋で行動力がある愛でした。神様はその心を見て、彼女たちを用いられたのです。

皆さんはイエス様を愛していますか？　大好きだと言えますか？　それは決して義務でも重荷でもないはずです。

「神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。」(Ⅰヨハネ 5:3)

イエス様は私たちのために十字架にかかり、罪を負って死んでくださり、死に勝利して甦り、信じる私たちに永遠のいのちを与え、いつも共にいると約束してくださっているのです。

聖書知識も奉仕も大切であることは違いありません。しかしそれにも増して、主が用いようとされるのは、イエス様が大好きで、このお方のために喜んで仕えたいと願い行動する、この女性たちのような純粋な愛を持つ者なのです。